

第51回日本臨床化学会年次学術集会

吉田 繁*

第51回日本臨床化学会年次学術集会は平成23年8月26日(金)~28日(日)の3日間、集会長に渡邊直樹教授(札幌医科大学医学部臨床検査医学講座)のもと、札幌医科大学において開催されました。実行委員長は同じく渡邊直樹教授、事務局長は浅沼康一先生(札幌医科大学附属病院検査部)が務められました。学術集会のテーマは「臨床化学の新たな可能性を問う」であり、今後の臨床化学における新たな視点、他分野との融合、そして、それによる更なる飛躍という集会長の熱意が込められたテーマでありました。そして、内容もテーマを反映し、臨床化学の分野にとらわれず多様な視点、分野から厳選された多くの講演が用意され、どの会場に足を運ぶか悩ましい3日間でありました。

今回は一般演題の募集が東日本大震災中であったにも関わらず107題と例年よりも多くの演題数がエントリーされ、本会員の底力を感じさせるものでありました。そして、特別講演、教育講演5題、シンポジウム4題と、最新の話題のみならずビールのおいしさ、宇宙の雪と参加者を飽きさせない内容でした。以下に主なタイトルを記します(敬称略)。特別講演:「Companion diagnosticsと今後の診断薬開発」登 勉(三重大学)、教育講演:「スフィンゴ脂質代謝と病態」五十嵐靖之(北海道大学)、「コレクチンによる自然免疫機構」黒木由夫(札幌医科大学)、「ビールのアート&サイエンスー麦とホップが生み出すおいしさの秘密ー」渡 淳二(サッポロビール株式会社)、「地球

の雪・宇宙の雪」香内 晃(北海道大学)、「全自動糖鎖解析システムの開発と臨床応用」西村紳一郎(北海道大学)、シンポジウム:「臨床化学の発展に貢献する薬学の力」、「若い力が目指す臨床化学の未来」、「ニューテクノロジーは臨床化学の新しい地平線を拓く」、「本邦における基準範囲の共有化に向けて」、ワークショップ:「知っておきたい免疫検査のピットフォールとハーモナイゼーション」、「分析装置と技術の進歩が切り開く明日の臨床化学」、さらにプロジェクト報告として「酵素・試薬」をはじめとする各専門委員会から8



学術集会入り口

* 北海道大学大学院保健科学研究院 shiyoshi@med.hokudai.ac.jp

報告、ランチョンセミナー10題、イブニングセミナー3題などでした。さらに2011年学会賞の表彰に続き、学術賞 惠 淑萍(北海道大学)、技術賞 酒井康裕(シスメックス株式会社)の受賞講演がありました。会員懇親会は学会場近くの札幌プリンスホテルにて催され、たいへん多くの参加者があり、大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。

今回は内容が多彩であり、また一般演題数が多いことから例年になく参加者が多く、約700名ということでした。その中には大学や研究所の研究者のみならず、企業の研究者と色々な分野から臨

床化学というキーワードで集った研究者が、活発な議論を繰り広げ、また、これから臨床化学を担う大学院生、学部学生の演題発表も多くあり、まさしく、ベテランと若者のハーモナイゼーションを感じさせる集会でありました。

第52回は諏訪部 章教授(岩手医科大学医学部臨床検査医学講座)のもと、平成24年9月6日(木)~8日(土)にアイーナ(岩手県民情報交流センター)を会場として開催されます。臨床検査学に携わる多くの教員、学生の皆さんが参加されることを期待しています。